



ハルナグループ CSR 経営理念

顧客志向を経営の核として

顧客評価に値する品質とは何かを問い

顧客思考を超える製造とは何かを考え

顧客歓喜の果実を己の収穫とする

お客様へ満足いただけるよう私たちは進化し続けます

ハルナグループ コーポレートガバナンス基本方針

ハルナグループは、すべてのステークホルダーの皆さまから、「価値ある企業」として支持され続けることが、コーポレートブランド「ハルナグループ」の価値向上につながるとの認識のもと、コーポレートガバナンスの強化及び経営の透明性の向上に、積極的に取り組んでおります。グループ全体として、グループ政策委員会、グループ監査委員会及びグループアドバイザリー委員会、また

本年度よりハルナリスクインテリジェンス委員会を設置し、グループ全体のガバナンスの強化と相乗効果の創出を図ってまいります。また、執行体制として、監督機関である取締役会と執行機関である執行会を設置し、監督と執行の分離を図り、業務執行の迅速性と経営判断の慎重性の両立を図ってまいります。

コンプライアンスへの取り組み

ハルナリスクインテリジェンスの構築と委員会の設置について

企業は常にリスクにさらされており、様々なリスクについて未然に防止し、発生してしまった時においても損失を最小限に抑えられる体制づくりが必要となってきます。ただし、様々な無数・無限にあるリスクを全てコントロールしようとすれば、成長性を失う可能性が高くなってしまいます。そこで、中長期的に見て自らの存続・発展にとって大きな阻害要因となるいくつかのリスクを見つけ出し、その

リスクについて経済的かつ合理的な対策を講じていくことが必要となってきます。これからリスクマネジメントを全社的に取り組むのであれば、グループ全体のリスクをトータルに捉え、損失だけを考える受身の体制から、将来を見据えた能動的なトータル管理が行える体制づくりを目指していきたいと考えています。

リスクインテリジェンスについて

リスクマネジメントでは、会社の破綻を防ぐ危機管理的な要素が強調されていましたが、リスクインテリジェンスではリスクを単なる脅威としてではなく、同時に成長と収益拡大をもたらすものとして、従来よりも広い視野でとらえ直し、目的を「企業の目標達成」とすることで、前向きなリスク管理を目指します。また、リスクインテリジェンスでは中長期経営目標を達成する(目的)ために、その障害となる可能性のあるリスクや「収益機会の減少」も管理していきます。これは、現有資産の保護と将来の成長目標の強化の両方を対応するこ

収益を生むリスクと生まないリスク

リスクインテリジェンスは、市場機会を予測しそれに対応していく能力を、深刻な業務の混乱という潜在的可能性に対する備えと同じくらい重要なものと考え、「既存価値の保護」を行い、損失を防ぐリスクマネジメント活動(バリュー・プロテクション)のみならず、「収益機会の確保」のためのリスクマネジメント活動(バリュー・クリエーション)があって初めて企業の目標達成が盤石なものになります。

収益を生むリスク = 収益機会の確保と創出 (バリュークリエーション)

収益を生まないリスク = リスクヘッジと損失回避 (バリュープロテクション)

ハルナリスクインテリジェンス

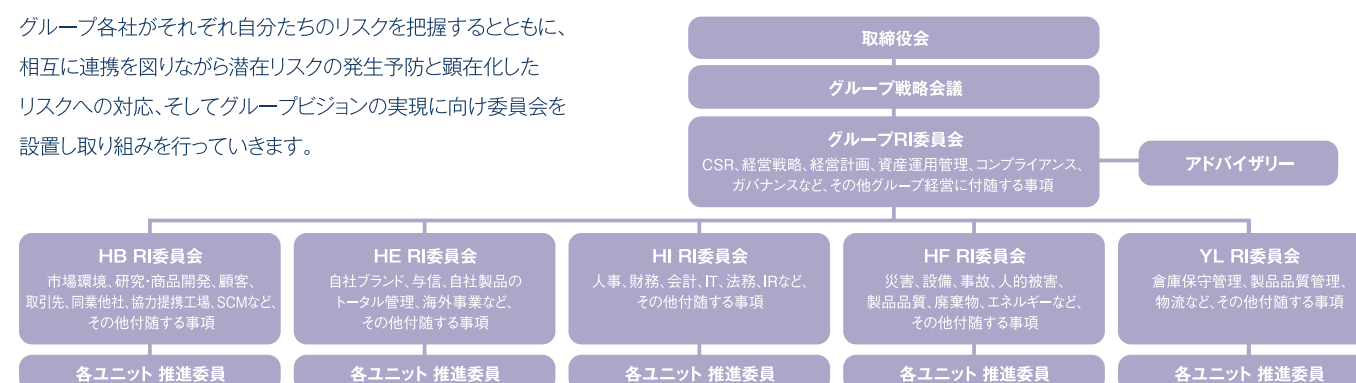
ハルナリスクインテリジェンスとは市場・顧客の変化と機会を予測し、収益の確保と創出を図ると共に、潜在的な広範囲にわたるリスクを適切にマネジメントすることで、発生しうる損失を回避させ、ハルナ経営ビジョンの目標を確実に達成させることを言います。

目的 ハルナ経営ビジョンの目標達成と損失の回避

マネジメント範囲 現在と将来の収益機会の確保と創出及び損失リスクの回避

ハルナリスクインテリジェンス(HRI)体制

グループ各社がそれぞれ自分たちのリスクを把握するとともに、相互に連携を図りながら潜在リスクの発生予防と顕在化したリスクへの対応、そしてグループビジョンの実現に向け委員会を設置し取り組みを行っていきます。



とになります。マイナス面の低減を望むだけでなく、プラス面の成果も盛り込み、リスクをマイナス方向の脆弱性としてではなく、プラス方向の積極的な備えとしてとらえていきます。

	リスクインテリジェンス	今までのリスクマネジメント
主な目的	企業の目標達成	企業の破綻や損失の回避
管理範囲	損失と収益機会減少 (現在及び将来のリスクと機会)	損失 (現在すでにあるリスク)
体制	能動的・継続的	受身

リスクの抽出

ハルナビジョン2015をより確実に実行していくため、今後考えられるリスクを全て織り込んだリスクマップの構築を行いたいと考えております。リスクマップの基本的構成は以下のとおりです。

1) バリュー・クリエーション項目

① 戦略と計画に関するリスク

1. 企業の責任と持続可能性 2. 外的要因 3. 経営戦略・計画

② 業務運営と経営インフラに関するリスク

1. 会社資産 2. 財務と会計 3. 人事・教育 4. 情報システム
5. 法務 6. 開発 7. 販売・マーケティング 8. 生産・環境・品質
9. コミュニケーション 10. サプライチェーン

2) バリュー・プロテクション項目

① 災害・事故

1. 自然災害 2. 事故 3. IT

③ コンプライアンス

1. コンプライアンス

② ガバナンス

1. コーポレートガバナンス・倫理観

④ 開示と報告

1. 開示と報告

社会貢献

東日本大震災復興支援に向けた取り組みについて

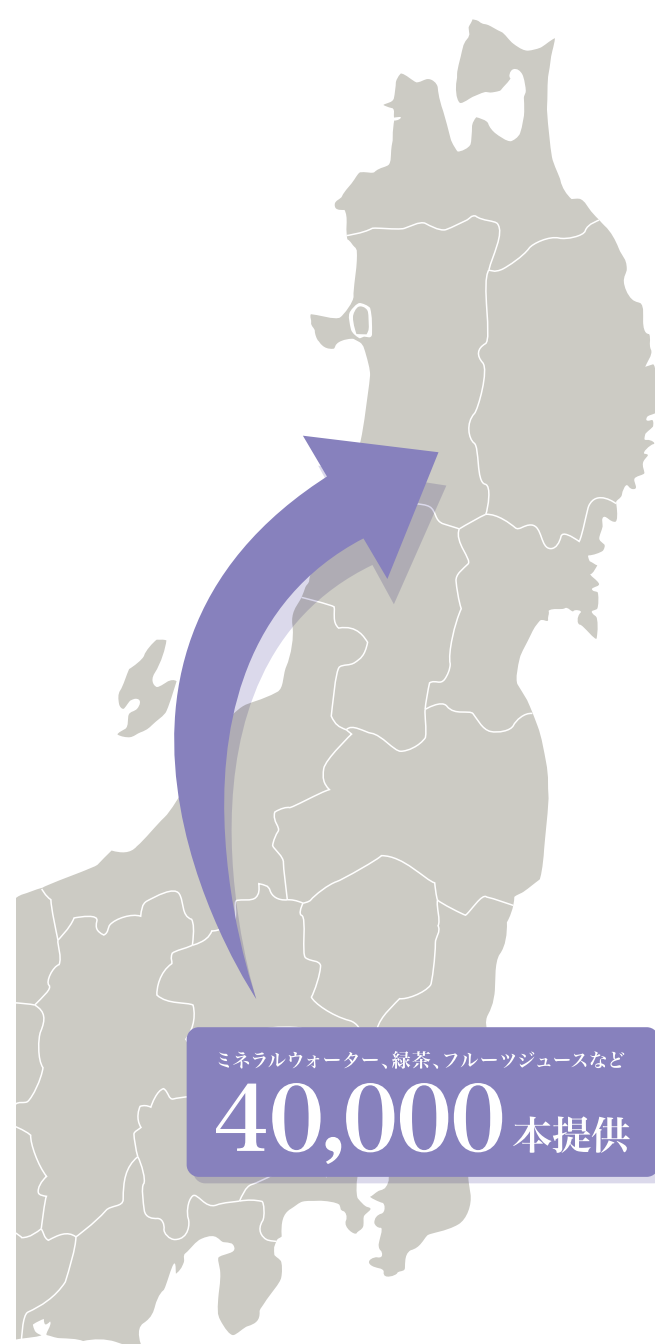
2011年3月11日に発生した東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さま、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

ハルナグループでは、東日本大震災の被災地の復興支援活動に微力ながらもお役立てていただきたいという思いから、まずミネラルウォーター・緑茶・フルーツジュースなど、飲料の提供と義援金を寄付させていただきました。

しかし、今回の震災被害は過去に例を見ない甚大なものであり、被災地の復興・再生についても長期化が予想されています。これからもハルナグループとして出来る支援について新たな復興支援も検討し、引き続き全力を尽くしていきます。



上毛新聞社 代表取締役社長 高橋康三様を通じて義援金を寄附させて頂きました。



群馬県内の各避難所へも物資をご提供。

ハルナグループでは、当工場のある群馬県内へ避難された3,000名の方々へ一刻も早く支援物資をお届けしたいという思いから、下記の避難所へ直接伺い、

飲料と、ハルナグループの家族のボランティアから寄せられた衣料品やランドセルなどの支援物資をお届け致しました。

群馬県内23カ所の避難所へ
支援物資を提供

- ① みなかみ町総務課役場
- ② 前橋市いきいき生活課グリーンホーム前橋
- ③ 榛東村建設課本庁舎
- ④ 東吾妻町建設課町民体育館
- ⑤ 太田市商業観光課市役所
- ⑥ 館林市農業振興課市役所農業振興課
- ⑦ 明和町環境水道課社会体育館
- ⑧ 千代田町総務課役場
- ⑨ みどり市社会福祉課笠懸庁舎
- ⑩ 桐生市社会係総合福祉センター
- ⑪ 安中市福祉課市役所
- ⑫ 沼田市社会福祉係ふれあい福祉センター
- ⑬ 藤岡市企画課市役所防災センター
- ⑭ 邑楽町福祉課福祉センター寿荘
- ⑮ 中之条町総務課役場
- ⑯ 高山村総務課役場
- ⑰ 和村総務課温泉センター昭和の湯
- ⑱ 伊勢崎市社会福祉課市役所
- ⑲ 高崎市工業振興課高崎市計量検査所
- ⑳ 大泉町安全安心課大泉町保健福祉総合センター
- ㉑ 草津町総務課役場
- ㉒ 片品村保険福祉課文化センター
- ㉓ 川場村総務課役場
- その他市町村



ハルナグループは復興に向けて、これから先も私たちにできることは何かを考え、微力ながらも災害復興の支援となる活動を引き続き行ってまいります。まずは、「元気」や「健康」の源となる、安心で安全な飲料をつくり皆さまへお届け

けることで貢献していきたいと考えております。被災地の皆さまに、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を社員一同、心よりお祈り申し上げます。

ハルナグループの地域社会貢献活動

エコキャップ推進活動

～Ecocap Movement～ペットボトルのキャップを回収して再資源化することで得られた売却益の一部を、開発途上国の子供たちへのポリオワクチン代として寄付する運動です。ハルナグループでは2009年5月より、一人の女子社員の『地球と世界の子供たちを救おう』という声から活動を始めました。

実績 2010年度の目標30,000個をクリアし、合計80,000個に達しました!

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個数	5,156	21,930	5,841	11,193	7,339	6,041	7,887	5,388	3,712	2,577	1,870	3,705	82,639
ポリオワクチン 換算	6.4人分	27.4人分	7.3人分	13.9人分	9.1人分	7.5人分	9.8人分	6.7人分	4.6人分	3.2人分	2.3人分	4.6人分	103.2人分

ポリワクチンにして103人の子供の命が救われました。(エコキャップ800個で1人の子供の命が救えます)

集められたキャップは、NPO法人エコキャップ推進協会へお渡し致しました。(61,000個) 10月29日受け渡し完了時点。



献血活動

2011年1月、日本赤十字社の推計結果より「少子高齢化で16年後には約100万人の血液が足りなくなる」と発表されました。がんや手術などで輸血が必要な50歳以上の高齢者が増えるにもかかわらず、献血できる若者の数が減る。厚生労働省は、献血者が減り続けている10代の若者の協力呼びかけを強化している現代です。当社では、定期的に献血活動を実施し「ささえあう心」を大切にしています。



	HF (第1～第3プラント)			HF (第4～第5プラント)			合計
	7月14日	12月2日	小計	5月31日	11月25日	小計	
協力者	33人	53人	86人	27人	31人	58人	145人
実施者	29人	45人	74人	22人	21人	43人	117人

今後も継続して活動し皆さまのお役に立てればと考えています。



ピンクリボン活動

乳がん治療と予防研究機関であるNational Breast Cancer Foundationへの継続的な寄付を通じて、Estee LauderやFordといったグローバル企業と同等のPlatinum Partnersとしてピンクリボン活動を通じて、乳がんの防止、予防研究に貢献しています。こうした活動を支援するため、日本総代理店である当社もNPO法人「乳房健康研究会」にピンクリボンパートナーとして、プレストケア募金を通じてピンクリボン活動を応援しています。



ちびっこ大学への支援

ハルナグループの拠点となる群馬県にある国立大学法人群馬大学では、子供たちが体験学習を通じ科学を楽しく学ぶ教室「群馬ちびっこ大学」を開催しています。今年は教室に使用するペットボトルを当社より提供させていただきました。ハルナグループも将来を担う子供たちの健やかな成長を応援していきます。



地域への公園提供

ハルナグループは、地域の方々へ喜んでいただけるように、そして子供たちの健全な育成を願い、2005年に「ハルナコミュニティガーデン」を設置しました。地元の方々の交流の場となる「人に優しい美しい公園」「環境に配慮した公園」「防犯防災に配慮した安全な公園」として、地元の方々が、屋外で気持ちよく遊ぶためのお手伝いができればと考えています。



河川清掃活動

ハルナグループでは、ハルナ工場付近の唐沢川の清掃活動に参加しており、早くも11年が経ちました。社員一人一人が、地域貢献の精神を持ち、自然や環境に対して感謝の意を込めながら積極的にボランティア活動を行っています。

工場周辺地域の河川掃除の実施



ハルナビジネススクール

ハルナグループでは、創業時より、企業価値を生み出す人材の育成にこだわり、ずっと力を注いでまいりました。そして、体系的知識の習得と自分の専門分野以外への見識の向上を目的として、2005年4月にビジネススクールを開講いたしました。ビジネススクールでは、客員教授による特別講義、社内講師による通常講義、合宿制のウィンタースクールなど、さまざまな形を通じて、「企業価値を創造する人材育成」を推進しております。

2005年4月から2010年12月までに111講座を開催し、受講人数は2,551名、外部の講師は20名を超えました。そこで過去5年間の講義内容をご紹介します。

講師名	講座名	講座内容分類	実施年
ハルナグループ 最高経営責任者 青木清志	新しい時代への製造業構想	経営論	H.17年
	グループ経営とアライアンス戦略	経営論	H.19年
	強い企業の実現に向けて+αが成功の基	経営論	H.19年
	ハルナグループの将来構想(2) 経営者の時代	経営論	H.19年
	グループ経営のための戦略①	経営論	H.20年
	グループ経営のための戦略②	経営論	H.20年
	グループ経営のための戦略③	経営論	H.20年
	地球環境の課題と対策(時代認識)	政治・経済・情勢	H.21年
	貨幣を超えるもの	経営論	H.22年

講師名	講座名	講座内容分類	実施年
群馬大学 名誉教授 国土館大学 経営学部教授 田村泰彦様	ネットワーク組織論(1)(場面情報とその連結)	経営論	H.17年
	ネットワーク組織論(2)(変容する社会と企業)	経営論	H.17年
	ネットワーク組織論(総括論)	経営論	H.17年
	ナレッジマネジメント入門Ⅰ(知識創造企業を目指す経営学)	経営論	H.18年
	ナレッジマネジメント入門Ⅱ(知識創造企業を目指す経営学)	経営論	H.18年
	日常業務における「場」のセッティングと知識伝承について	経営論	H.19年
	経営情報システム①	経営論	H.20年
	経営情報システム②	経営論	H.20年
	経験からのメッセージ 製造業の重要性(1)	工場経営/技術	H.17年
	経験からのメッセージ 製造業の重要性(2)	工場経営/技術	H.17年
三菱商事(株) 元産業機械本部長 佐野昭八郎様	経験からのメッセージ 製造業の重要性(3)	工場経営/技術	H.17年
	米国飲料業界に学ぶ①(年間留学経験総括)	工場経営/技術	H.18年
	米国飲料業界に学ぶ①	工場経営/技術	H.20年
	米国飲料業界に学ぶ②	工場経営/技術	H.20年
	競争力の源泉(1)事業システムの構造力	経営論	H.17年
	競争力の源泉(2)なぜトヨタはフォードに勝ったのか	工場経営/技術	H.17年
東京理科大学 大学院 イノベーション 研究科教授 松島茂様	競争力の源泉(3)経営資源	経営論	H.17年
	競争力の源泉(4)企業の成長とアントレプレナーシップ	工場経営/技術	H.17年
	課題の事例研究Ⅰ(ハルナグループのケーススタディー)	経営論	H.18年
	課題の事例研究Ⅱ(ハルナグループのケーススタディー)	経営論	H.18年
	企業家のビジョン 浅沼技研、昭芝製作所のケース	工場経営/技術	H.19年
	組織の中のアントレプレナーシップ	工場経営/技術	H.19年
	ケーススタディー・企業経営	工場経営/技術	H.19年
	キリンビールラガーの生ビール化	工場経営/技術	H.20年
	トヨタに見る販売・製品・生産の相互発展のダイナミズム	工場経営/技術	H.21年
	産官学提携の重要性とその実践	健康学	H.17年
高崎健康福祉大学 健康福祉学部教授 江口文陽様	きのこに学ぶ 変化する社会への対応	政治・経済・情勢	H.17年
	産学連携のケーススタディー	健康学	H.18年
	市場環境変化とマーケティング	マーケティング/営業	H.17年
	企業発展に向け今求められること	マーケティング/営業	H.18年
サッポロ飲料(株) 元代表取締役社長 群馬大学客員教授 岡俊明様	これからの会社はどうかあるべきか	工場経営/技術	H.19年
	飲料・食品業界に於ける市場変化と消費動向	マーケティング/営業	H.20年
	飲料・食品業界に於けるこれから求められる商品とものづくりの視点	工場経営/技術	H.20年
	ハルナグループの集団発展に向けて「顧客視点の研究開発とマーケティング」	マーケティング/営業	H.20年
	業態の変遷と今なぜPB商品か	マーケティング/営業	H.21年
	儲かる商品はどこで開発するかー商品開発の基礎知識	マーケティング/営業	H.21年
	流通業のマーチャンダイジングと飲料業界	マーケティング/営業	H.21年
	サッポロ飲料(株) 元代表取締役社長 森田茂様	マーケティング/営業	H.17年
	元代表取締役社長 岡俊明様	工場経営/技術	H.18年
	経済ジャーナリスト 財部誠一様	政治・経済・情勢	H.19年
群馬銀行元支店長 小林欣司様	自己意識改革と自己実践	人づくり	H.18年
	会社を活性化させるためには何が必要か	工場経営/技術	H.18年
	ハルナグループ代表CEO青木との会談～経営論～	経営論	H.18年
	勝者の思考ー良い仕事をして良い人生を送るために	政治・経済・情勢	H.19年
	グループ経営のための戦略	経営論	H.20年
	Think Global		H.21年
	植物性乳酸菌ラブレについて	工場経営/技術	H.19年
	カゴメ㈱ 部長 横田哲也様 課長 末田隆司様	健康学	H.17年
	丸紅マシナリー 元代表取締役社長 下田祐紀夫様	人づくり	H.18年
	経済ジャーナリスト 財部誠一様	政治・経済・情勢	H.19年
群馬大学 社会情報学部 准教授 杉山学様	自己意識改革と自己実践	人づくり	H.18年
	会社を活性化させるためには何が必要か	工場経営/技術	H.18年
	ハルナグループ代表CEO青木との会談～経営論～	経営論	H.18年
	勝者の思考ー良い仕事をして良い人生を送るために	政治・経済・情勢	H.19年
	グループ経営のための戦略	経営論	H.20年
	Think Global		H.21年
	植物性乳酸菌ラブレについて	工場経営/技術	H.19年
	カゴメ㈱ 部長 横田哲也様 課長 末田隆司様	健康学	H.17年
	丸紅マシナリー 元代表取締役社長 下田祐紀夫様	人づくり	H.18年
	経済ジャーナリスト 財部誠一様	政治・経済・情勢	H.19年
群馬大学 社会情報学部 准教授 杉山学様	自己意識改革と自己実践	人づくり	H.18年
	会社を活性化させるためには何が必要か	工場経営/技術	H.18年
	ハルナグループ代表CEO青木との会談～経営論～	経営論	H.18年
	勝者の思考ー良い仕事をして良い人生を送るために	政治・経済・情勢	H.19年
	グループ経営のための戦略	経営論	H.20年
	Think Global		H.21年
	植物性乳酸菌ラブレについて	工場経営/技術	H.19年
	カゴメ㈱ 部長 横田哲也様 課長 末田隆司様	健康学	H.17年
	丸紅マシナリー 元代表取締役社長 下田祐紀夫様	人づくり	H.18年
	経済ジャーナリスト 財部誠一様	政治・経済・情勢	H.19年
群馬大学 社会情報学部 准教授 杉山学様	自己意識改革と自己実践	人づくり	H.18年
	会社を活性化させるためには何が必要か	工場経営/技術	H.18年
	ハルナグループ代表CEO青木との会談～経営論～	経営論	H.18年
	勝者の思考ー良い仕事をして良い人生を送るために	政治・経済・情勢	H.19年
	グループ経営のための戦略	経営論	H.20年
	Think Global		H.21年
	植物性乳酸菌ラブレについて	工場経営/技術	H.19年
	カゴメ㈱ 部長 横田哲也様 課長 末田隆司様	健康学	H.17年
	丸紅マシナリー 元代表取締役社長 下田祐紀夫様	人づくり	H.18年
	経済ジャーナリスト 財部誠一様	政治・経済・情勢	H.19年
群馬大学 社会情報学部 准教授 杉山学様	自己意識改革と自己実践	人づくり	H.18年
	会社を活性化させるためには何が必要か	工場経営/技術	H.18年
	ハルナグループ代表CEO青木との会談～経営論～	経営論	H.18年
	勝者の思考ー良い仕事をして良い人生を送るために	政治・経済・情勢	H.19年
	グループ経営のための戦略	経営論	H.20年
	Think Global		H.21年
	植物性乳酸菌ラブレについて	工場経営/技術	H.19年
	カゴメ㈱ 部長 横田哲也様 課長 末田隆司様	健康学	H.17年
	丸紅マシナリー 元代表取締役社長 下田祐紀夫様	人づくり	H.18年
	経済ジャーナリスト 財部誠一様	政治・経済・情勢	H.19年
群馬大学 社会情報学部 准教授 杉山学様	自己意識改革と自己実践	人づくり	H.18年
	会社を活性化させるためには何が必要か	工場経営/技術	H.18年
	ハルナグループ代表CEO青木との会談～経営論～	経営論	H.18年
	勝者の思考ー良い仕事をして良い人生を送るために	政治・経済・情勢	H.19年
	グループ経営のための戦略	経営論	H.20年
	Think Global		H.21年
	植物性乳酸菌ラブレについて	工場経営/技術	H.19年
	カゴメ㈱ 部長 横田哲也様 課長 末田隆司様	健康学	H.17年
	丸紅マシナリー 元代表取締役社長 下田祐紀夫様	人づくり	H.18年
	経済ジャーナリスト 財部誠一様	政治・経済・情勢	H.19年
群馬大学 社会情報学部 准教授 杉山学様	自己意識改革と自己実践	人づくり	H.18年
	会社を活性化させるためには何が必要か	工場経営/技術	H.18年
	ハルナグループ代表CEO青木との会談～経営論～	経営論	H.18年
	勝者の思考ー良い仕事をして良い人生を送るために	政治・経済・情勢	H.19年
	グループ経営のための戦略	経営論	H.20年
	Think Global		H.21年
	植物性乳酸菌ラブレについて	工場経営/技術	H.19年
	カゴメ㈱ 部長 横田哲也様 課長 末田隆司様	健康学	H.17年
	丸紅マシナリー 元代表取締役社長 下田祐紀夫様	人づくり	H.18年
	経済ジャーナリスト 財部誠一様	政治・経済・情勢	H.19年
群馬大学 社会情報学部 准教授 杉山学様	自己意識改革と自己実践	人づくり	H.18年
	会社を活性化させるためには何が必要か	工場経営/技術	H.18年
	ハルナグループ代表CEO青木との会談～経営論～	経営論	H.18年
	勝者の思考ー良い仕事をして良い人生を送るために	政治・経済・情勢	H.19年
	グループ経営のための戦略	経営論	H.20年
	Think Global		H.21年
	植物性乳酸菌ラブレについて	工場経営/技術	H.19年
	カゴメ㈱ 部長 横田哲也様 課長 末田隆司様	健康学	H.17年
	丸紅マシナリー 元代表取締役社長 下田祐紀夫様	人づくり	H.18年
	経済ジャーナリスト 財部誠一様	政治・経済・情勢	H.19年
群馬大学 社会情報学部 准教授 杉山学様	自己意識改革と自己実践	人づくり	H.18年
	会社を活性化させるためには何が必要か	工場経営/技術	H.18年
	ハルナグループ代表CEO青木との会談～経営論～	経営論	H.18年

社会環境

エネルギーの今後の展開について

ハルナグループでは環境保全政策も重点取り組みのひとつとして、社会環境Unitを設置し、生産における省資源化から、CO₂排出量削減、工場の省エネルギー化、化学物質管理、工場の順法管理、オフィスの省エネルギー政策、

ロジスティクスCO₂削減、リサイクル活動、環境会計の政策などを積極的に行ってまいりました。今後はさらに進化した「人と地球にやさしい技術開発」にチャレンジしていきます。

地球環境問題

地球温暖化

オゾン層の破壊

酸性雨

海洋汚染

発展途上国の公害

熱帯林の減少

野生生物の減少

砂漠化

有害廃棄物の越境移動

エネルギーについての基本的な考え

ハルナグループが取り組むことが出来る、上記地球環境問題対策と、環境経営によるグループの企業価値の継続的向上を行う。

- 化石燃料をはじめとする再生不可能なエネルギーから再生可能エネルギー利用への転換
- エネルギー使用時の環境負荷のないまたは環境負荷の少ないエネルギーへの転換
- 省エネルギー対策の継続的実施によるエネルギー使用量の削減
- 環境対策と経済効果の両立(低コスト化)
- 環境会計の進化
- より効果的で効率的な環境経営実施のための環境マネジメントシステムの構築(社員教育、廃棄物対策、省エネ対策など)

社員教育の実施



今後の検討、取り組み内容

環境負荷の少ないエネルギー利用、省エネ対策

天然ガス利用、燃料電池、ヒートポンプ、コージェネレーションシステム

再生可能エネルギーの積極的導入

太陽光発電、風力発電、バイオマスエネルギー

環境マネジメントシステムの構築・運用

環境にも安心の天然ガスを導入しています。

